

「標茶町行財政改革推進計画」町民説明会

－ 議事録 －

1. 日 時 令和 8 年 5 月 22 日（金）午後 7 時 00 分から午後 8 時 30 分まで
2. 場 所 茶安別農村環境改善センター
3. 出席者 【参加人数】 14 人
【町役場】 町 長 佐藤 吉彦
副町長 牛崎 康人
教育長 青木 悟
企画財政課長 齊藤 正行
行財政改革推進室長 内藤 政夫
4. 会議内容
（1）開会
（2）開会あいさつ
（3）説明
（4）質疑応答
（5）閉会あいさつ
（6）閉会
5. 会議経過
（1）開会 午後 7 時 00 分
（2）開会あいさつ
次のとおり町長よりあいさつを述べた。

本日は、「標茶町行財政改革推進計画町民説明会」に、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

現在、標茶町では、人口流出や少子高齢化による過疎化の進行、それに伴う人手不足、公共施設の老朽化など、さまざまな課題を抱えております。これらの課題は収入の減少や維持経費の増加につながりますが、加えて、近年の物価高騰などもあり、町の財政を取り巻く状況は年々厳しさを増しております。

こうした中、このまま、これまでと同じ形で事務事業や財政運営を続けていくことは、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていく上で大変大きな問題であることから、令和 7 年 6 月 16 日に「標茶町行財政改革推進計画」を策定いたしました。

この計画を策定し実行していくことは、現在の町の状況や課題を町民の皆さまと共有しながら、厳しい状況を乗り越え、これからの標茶町をより良い方向へ進めていくための取り組みであります。

そして、行財政改革は、行政だけで進めるのではなく、町民の皆さまとともに考えながら進めていくことが大切であると考えております。

計画策定から2年目となる今年は、より具体的な取り組みについて、皆さまと意見を交わしながら、将来に向けた基盤づくりをしっかりと進めてまいりたいと考えております。

行財政改革という言葉を聞くと、「削減」や「見直し」といったイメージから、不安を感じられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、それは単に何かを減らしたり、なくしたりすることが目的ではありません。限られた財源の中で、本当に必要なサービスを将来にわたって維持し、次の世代につないでいくための取り組みであります。

そして、見直しによって生まれた財源を活かしながら、ふるさと標茶がこれからも「元気なまち」であり続けられるよう、将来への投資にもつなげていきたいと考えております。

本日は、なぜ今このような取り組みが必要なのか、また、標茶町の現状や今後の方向性について、できるだけ分かりやすくご説明し、皆さまから率直なご意見やご提案をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 説明

「標茶町行財政改革推進計画」の概要について町長より説明。

(4) 質疑応答

次のとおり参加者の質疑に対し回答を行った。

【プライバシー保護及び個人情報保護の観点から、個人名や固有名称は表現を変更しています。また、録音品質により聞き取りづらい部分などは最低限の補筆を施しています】

参加者①:

参加者①ですけれども。

説明を聞いてですね、ま、金ないのは皆さん方多分わかってると思うんですけども。

現時点で標茶町はなんぼ、結局、予算、まあ金があるんですかね。

あの一6月でしたっけ、地方交付金が出てくるとかっていう話がありますけども。その前に、今、現時点の結局、お金がないから、もしかしたら借金してるかもしれない。そのことを、言ってもらえれば。

町長:

はい。あの先ほどの資料の中にもあるんですが、まず町のお金、今現在で、予算化されてないお金がいくらあるかっていうのが、基金残高という 10 億 8,000 万です。

それはまだ予算化もしていないまちの今時点の貯金額、これは令和 8 年度末の状況だということです。

で、現在、一般会計とか特別会計、いろいろ予算化をして、予算を組んでますので、それも実はまあ、町のお金といえばお金なんです。

それとあと、借金のお話をしましたけども、借金もここで言う、公債費、公債費のこの金額、例えば標茶町が借金として、令和 8 年に支払わなければならないお金が約 15 億円だってことです。

そういうことでよろしいですか。

参加者①:

まあ年度的に見るとね。

町長:

はい。

参加者①:

年度的に見ないで、今、現時点、今日時点の内容で聞きたいんですけども。

それはどうなの。黒字なんだべか赤字なんだべか。

いや年度レベルでいうならば、そうやってざっくりばらんかもしれないけども結局金あるなら借りなくてもいいんだよね。

今現時点では、町は借りてるの。

町長:

これまでもなんですけども、例えば大型事業をやるときに、例えば標茶中学校だ 20...7、8 億かかっているんですけども、それも要するに毎年払える金額も

ありますけども、例えば公債費って借金をして何年間で支払いしますよってことで収支を取って、一気に払うわけじゃなくて、はい、毎年そのいろんな事業が、例えば今年はえ一校舎からいきますよ、次の年は次の何年かした後に体育館建てますよ、最後外構ですよという形で、その間で20何億のお金が何年かの間に動いてるっていう。

参加者①:

いえいえ、それはわからない。

町長:

ですから、今時点で収支がちょっと黒字なのかどうかってことは、なかなか見えづらい話なんですけど。

参加者①:

銀行とかそういうのどこからか借りてないんですか。

町長:

もちろん借りてますよ。

単年度で借りてるのもあるし、例えば長期でお借りしてるのもあります。

参加者①:

まあまあ。

町長:

国からお借りしてるのもそういうところですよ。

参加者①:

で、結局は赤字だから、地方交付金で返して黒字にする内容でもない。

結局は今のところ赤字っていうわけでもない。地方交付金が出てくるのを待ってるわけでもない。

町長:

まあそれは毎年国といろんなルールがあって、入ってくるお金が、例えばあの、今、えーと、40何億くらい入ってくるのか。

予算的には今年の当初で、えー45億のお金を国から入ってくるということで見込んでいます。

最終的にその金額が決まってくるのは大体7月末だって言われています。

国の基準で公表されています。

参加者①:

それが来ない限り赤字なんですよ。

町長:

はい、それを見込んでいたり、毎年最初のその予算の流れを言いましたけども、年度当初に例えば100億の事業をやるけども、町の例えば現時点での例えば手取りで町の自主的な財源としてあるのが、例えば80億なんで、

町長:

残りは基金から借りて交付税とか、例えば補助金が決まるとかね。

参加者①:

うん。

町長:

そういう財源を充当するのを待って、予算をずっとやってきてた。

参加者①:

いいよ、それでいい。

見てわかる。結局、金なくなって、金なくなって、結局は何て言うのかな、こういう地方交付税を待たないと黒字にできないっていうような体制なんだろうなと。そういうわけになると、それだって地方交付税が来なかったら赤字なんでしょ。赤字というか、町がやっていけないんだよね

町長:

まあそれは国からね、一定程度、その全ての自治体に対してルールがあって、入ってくるお金ですから、道路が何メートルあるとか、ね、そういう学校の数何個あるとか、住んでいる人も何人住んでるんで、標茶町には何億円要りますよというルールで入ってきます。

参加者①:

うん。

町長:

それをベースにしながら、全ての自治体は交付の段階以外は別ですけども、運営してるっていうのが状況です。

参加者①:

うん。

町長:

はい。

参加者①:

まあどっちにしろ年度年度の内容になってて、長い期間での借金って言った

方がいいけど、その返済から考えれば。

今はなんとなくわかるような感じもするんだけど、現時点でって考えれば。

副町長：

あの、さっき町長言ったように、8 年度って 110 億ぐらいの総予算なんですけど、で、あと、今日ご質問おっしゃるように、地方交付税って 45 億なんてかなり大きな部分を占めているんですけども、例えば他に言うと、町税があって、町税も固定資産税から始まって、町民税があり、いろいろあって、それが順順に入ってくるんですね。

なので、110 億の予算なんですけど、年度当初から現金 110 億あるわけじゃないんですよ。

なので、足りない分については一時的に借入れをしたりとかするんですけども、最終的にはその見積もりの中で、立てている債務、資産というのが合うように運営をするっていうのが、やり方ですね。

なので、今日の時点でどうなんだって言われると、決してその、えっと、何て言うかな、赤字でお金が回らないとかっていうわけではなっていないと思うんです。さっき言ったように、足りるように調達をして回してるので。

参加者①：

年度末になって、ここからつらいんだってなって、はっきりわかるという内容ですか。

副町長：

そうですね。はい。

参加者①：

で、去年は結局切り崩したってことは赤字になってるってことだったよね。そういうことだからこそ切り崩したんだよね。

町長：

国の交付税とか町税とか、いろんな種類のお金が入ってくる中だけでは足りなかったんで、基金を取り崩しをして収支のバランスを取ったって。

参加者①：

だから単年度で見れば赤字だったっていうことね。

副町長：

はい。

参加者②：

だから、今ずっとそれが続いているから、基金を取り崩して……。あ、参加

者②です、すいません。

基金を取り崩してやってる状況で大変ですっていう話だから。

副町長:

年度末に足りなくなったんじゃないくて、年度当初に予算を立てるときに、いろんなことをやるのに、ちょっとお金が足りないと。

なので、貯金を崩して財源にして、いろんなことをやろうっていうふうにやってきてるってところなんです。

これまでの決算、年度末の決算っていうと、決算時点で足りなくなるっていう状況には、こうしたことは一度もないです。

行財政改革推進室長:

ほかにご質問ございますでしょうか。

はい、お願いいたします。

参加者②:

もう一つ、町民の立場からして、ちょっと言いたかったのは、今回あのよう新聞にちょっと出たっていうのは、これは非常にまずかったなとは、まあ、どうしようもないことなんでしょうけど、思いますよやっぱり。

あれが、出たことによって、俺、標茶のイメージっていうのは、だいぶ落ちたなって思います。うん。

例えば今、僕なんかも従業員とか募集してますけど。あの、多分、こんな標茶、こんな町に、やっぱりよそから、まあ、この、例えば牧場で働きたいとかね、夢を持って来ても、町がこんだけサービスとか、うんと、公共のね、サービスとかが、これを先ちゃんとしたものが得られないっていう、他から来た人が思ったら、やっぱりこの町で働くとか、住み続けるということにはすごく不安でしょうし、まあ実際私たち町民も不安ですから、そういうのも。

だからあれは本当にちょっと、うん、どうしようもないっていうのも、まあ標茶町に限らずね、本当にこれはもう日本の縮図だなって。

それが最初にもうこういう小さな町に来るんだなっていう気持ちはしてますけども。

やっぱりあれでちょっとこう、標茶のイメージっていうのはすごく落ちたなっていうのは、自分は町民としてすごく残念ですし、悔しいですし。

でね、その中でこうやっていろいろとこう、人口のね、推移とかってちゃんとやってますけども。

例えばその、施設を作るとかいうのは、何年後、町民がこのぐらいになるにも関わらず、標茶はすごく町が広いですね。

だからやっぱりいろんな各地に学校があつたりだとか、いろんなこういう施設、公民館だとかの施設もあつたりだとか、プールだつたりもありますけども。

今こうやってこのグラフでもありますけどね。

減少していくのに次々とかう建てるていく。

この施設を建て、あそれはなんか国の防衛のね、予算とかもあるから、まあいろいろ建てざるを得ないとかっていう面もあるのかもしれないですけど。

それを果たして今までこうやってきて、そこに誰かが何か危機感を感じたりはしなかったのかなってというのは、一つ思います。

で、町長、先ほど、もう一つは、サービスをなくすということではないと。まあ、その人口にあったサービスをやっていくっていうお話でしたけども。果たしてそれで本当にうまくいくのかなと。

厳しいけども、これやっぱり何か自分の考えとしては、なくしていくとか、もっと抜本的になんかもうちょっとした、なんかちょっとこれ見ててもホワッとしてるっていうか。

もっとうち切り込んだ改革してかないと、本当にこの5年でこれちゃんといけるのかなっていうのも、やっぱりちょっと不安ですし。うーん。

まあ多分これは自分の個人的な考えなんで、これをね、町民のみんなに言うとか反感を食らうとか色々あるでしょうけども。

でもそれは何か、やっぱりなくしてかないと。

何かのサービスを、本当に必要でないサービスをなくしていくとかしないとか、ちょっと、厳しいんじゃないかなって。

これからの子どもたちが厳しいんじゃないかなっていう気がして、もっとうち、何て言うんだろうな。具体的に。

少しずつ何かをじゃなくて、もっとドーンとしたものが。

まあ病院の問題もありますけども。

病院なんかも果たしてこういう、どういうふうなやり方でやってくのかとか、僕は素人なので全然わかんないんですけど。

本当に困ってるのは多分、標茶の僕らの層ではなくて、今若い子供、小さい子供いるお母さん方とかは、やっぱり標茶に例えば小児科が週一回しかないとか、そういうことはすごく、困ってると思うんです。

でまあ、ご年配というか、高齢者の方も、まあやっぱり困ると思うし、なんかそういうことにもうちょっと特化していくとか、病院自体を。

なんかそういう、もっとグッととしたものが自分なんか欲しいなっていうふうに思いました。

町長:

分かりました。何点かあるんで、お答えしたいと思うんですけども、私も後ろに道新の支局長がいるんで、ちょっと喋りづらいなと思いながらいるんですけども。

実は私も非常に、あの記事を見て、いろんな人から実は、え、標茶町って本当にこうなの。ってことも含めてですね、ここまで書かれるの。ってことも実は言われました。何人かに。実を言うと。

それが一回だけじゃなくて、二回、三回って形で、例えばいろんな、例えば予算が可決しました、でも基金は例えば底ついていて、ってことを再度同じことで実は書かれているんですよ。

そのことを私は、これはちょっと書きすぎじゃないですか。ってことをお話

を申し上げましたけれども、これは標茶町にとって非常にあのマイナスイメージですよ、ってそれを聞いてて、何人か「道新取るのをやめた」って人います。ここまで書かれるんだったら道新取らないということを言っている人もいました。実を言うと、非常に残念なことだと思って。

ただ事実は事実として、基金がそこまで底をついたっていうことが事実なんですけども、そこはなんとか頑張っていきたいというふうに思ってますので。

それから、これから何をやっていくかという部分で、今日の説明の資料がまだ具体的なものがないんじゃないかっていう、実はその話も出てました。

私も実はそう思ってます。

ただ、ここに来て、あの、具体的にこれをやりますってことを実はあの、具体的に出さないでほしいって意見も出てます。実を言うと。

最終的に決めるのは、やはりいろんな選択肢を聞きながら、周りの人の意見も聞きながら、いろんな、今日はさらにそれに私どもが今、当面やろうとしていることを加えるか、いろんな意見、今日初回ですので肉付けをしていただきながら、こんなこともどうだとか、こんなことも考えたらどうだとか、そういった生の意見をですね、今日は聞くのが一番のメインだと思ってますので、そこはですね、しっかりやっていきたいと思っております。

それから病院の問題は、小児科の話もありました。実は私、あの、3年前に小児科は非常に大事だということで、一時期小児科開設、あの先生開設した時期、皆さん覚えてらっしゃいますか。

実はあの、旭川医大からいろんな話をあつて、旭川医大の、いや旭川医大じゃないな、名寄市立病院の副院長をやった先生、実は標茶に来てくれるってことで、来ていただいたんですが、非常に残念だったんですが、一月でお亡くなりになってしまってますね、なんとか小児科の方については以前からそう思ってたんで、まあ体調が悪くてですね、どうしようもなく残念な結果になったんですけども。

そういうことは皆さんから何を求めているかってことは私も十分分かってるつもりで動いてきました。

その後、今、この女性のお医者さんが来て、今院長になってもらって、また少しいろんな考えもらいながら進めていこうかなと思っています。

その中でも、単に例えばいろんな多くの方が診療所にしてしまった方がいいんじゃないとか、そんな意見もあるんですけども、そうじゃなくて、もう少し病院の今の機能を維持しながらっていう中で、診療科目をある程度絞っていきながら維持していった方が、今の体制としてはいいんじゃないかととも含めて、実は研究しています。まだ具体的に今決めてませんけども、その中に例えば婦人科はあまりそんなに件数も少ないんで、そういうことは皆さんから何を求めているかってことは、同じ先生が、例えば中標津に来てるんで、そういう人には中標津の方に移ってもらったらどうかとか、あるいは、あの、外科をどうなんだろうとか、外科をなくすと、例えば自動的に救急外来もなくなる。けども、それはどうなんだろうとか、そういったことも含めてですね、検討していきたい、そんな風に思ってますので、あの、なんとかですね、今日は皆さんからいろんな意見を逆に聞いて帰りたい、そんな風に思ってますので、足りない

部分が あった ら色々 言っ て いただ け ば、そん なふう に 思 い ます。

ちょっ と 何 か 答 え が 足 り な い 部 分 あ る か も し れ ま せ ん の で、よ ろ し く お 願 い し ます

参加者③:

はい、参加者③です。

ちょっ と、あ の、す ご い、ピン ポ イ ン ト で 聞 い ち ゃ う ん で す け ど。

あ の、育 成 牧 場 の こ と な ん で す け ど、現 在、町 内 の 牛 は 何 頭 入 っ て る ん で す か。で、町 外 は 何 頭 い る の か。

い や、な か っ た ら い や、後 で ま あ あ れ な ん で す け ど。

え っ と、育 成 牧 場 っ て、ま あ も と も と 結 構、町 外 と い う ね、そ う い う と ころ か ら が 結 構 入 っ て、で、逆 に 町 内 の 方 々 が な か な か、こ う、入 り づ ら い っ て い う か、入 れ づ ら い っ て い う と ころ も あ っ た 中 で、ず っ と 何 十 年 っ て こ の や っ て き た と ころ が、僕 が 酪 農 や っ て る ん で、あ れ な ん で す け ど も。

え ー と、な ン か、あ の、そ う い う ふ う に 我 慢 し て る 間 に、標 茶 の 中 で も 預 託 業 を 個 人 と か 会 社 で 立 ち 上 げ て、や っ て る 方 々 が 増 え て き て。

で、そ う い う 方 々 が 逆 に 増 え て き て る の を、も っ と う ま く 有 効 利 用 し て、ま あ 言 っ た ら い い の か わ か ん な い け ど、育 成 牧 場 や め ち ゃ え ば い い ン じ ゃ な い で す か。

そ う い う 方 に 標 茶 の 中 で 一 生 懸 命 や っ て く れ る、そ う い う と ころ に 預 け る っ て い う。

ま あ 僕 ら も そ う か も し れ な い で す け ど、も う 少 し あ の サ ー ビ ス と か 価 格 と い う の も 単 価 と か も 下 げ て も ら っ た り と か で き る ン じ ゃ な い か。

そ う い う ふ う に、や っ ぱ り こ の 同 じ 標 茶 の 中 で、あ の 助 け 合 い じ ゃ な い け ど う ま く 回 す 方 法 が あ っ て、ね、や っ ぱ り 育 成 牧 場 あ れ だ け、い ろ ん、結 局 そ っ ち の 方 の ニ ー ズ ば っ か り 聞 い ち ゃ っ て、ど ん ど ん ど ん ど ん 建 物 建 て て、ね、で、結 局 粗 飼 料 の 牧 草 が 足 り な く て、あ ち こ ち か ら 買 っ て は い る け れ ど も、ろ く な 草 を 買 っ て な い と か ね、わ け わ か ん な い 草 買 っ て る よ り は、そ う い う ふ う に ち ゃ ん と し た、プ ロ に な っ て る 方 々 が い る ん だ か ら、そ れ を う ま く 使 っ て や っ た 方 が。

そ れ に 何 か 今、こ れ 結 局 今 後 ね、こ れ を ちょ っ と 検 討 し な き や い け な い っ て 書 い て る ん だ っ た ら、さ っ き 参 加 者 ② さ ん が 言 っ た 通 り、ど っ か ズ バ ッ と や る と ころ を 見 せ る ん だ っ た ら、そ う い う の を う ま く 使 い な が ら や っ た 方 が、そ れ に な ン か な ん と か し て、な ン か 町 営 持 っ て る か ら 持 っ て る か ら っ て、そ れ に あ り す ぎ る と 逆 に 自 分 た ち も 苦 し い し、町 も 苦 し く し て る だ け だ と 俺 は 思 っ て る ん だ よ ね。そ れ が ま あ 僕 も 一 個 人 の 話 な の で、ど う 思 い ます。

副町長:

頭 数 な ん で す が、令 和 7 年 度 の 数 字 で、夏 の 間 の 頭 数 が、町 内 が、277,000 頭。延 べ で す ね。

で、町 外 が 6 万 8,000 頭 と い う 数 字 に な っ て い る の で。5 分 の 1 ぐ ら い が 町 外 と い う こ と で す ね。

で、まあ冬の間も同じぐらいの比率で、冬の間も 27 万頭、ちょっと、あの、わかりやすい数字が今ちょっと。

参加者①:

ちょっと待ってください。

ちょっといいかな、今の内容からもう一つ言いたいんだけども。

結局、まあ簡単に言えばやみつきみたいな感じで言わせれば、町の第三セクターってありましたよね。確か。

それを流用して独立再生にしてね、町育成牧場をやっていくと。

で、黒字に今の状態でいけば、赤字になったら町が負担して黒字にはならないと。なれない、できないんですよ。確か町営牧場って。

確かそういうような経営だったと思うんですけども。

それならばね、第三セクターにして黒字にしても。

参加者②:

町長、違うのは違う。ってはっきり大きな声で言った方がいいですよ。わかんないです。全然言った方がいいです。

参加者①:

なんか違うんですか。

町長:

黒字になるのがダメだとか・・・そういう仕組み。

参加者①:

いやダメだとは言っていないんだけど、黒字にはできないと。

町長:

いえ、黒字になりたくてもなれなかったっていうだけで、今まで。

参加者①:

黒字にできないってことは、あの、町議から聞いた記憶があるんだけども。

町長:

いや、だから黒字になんとか黒字にしようという努力をそれぞれやってきたんですけども、今までは実現していないし、例えば人件費も含めて、職員と同じ給料の分の職員がいたりとかですね、やはり人件費の高い分が、今民間のね、いろんな預託牧場 2 か所くらい出てるのを比較してみてもですね、やはりそういった差が、歴然としてあるのかなというのは。

参加者①:

近年は、赤字かもしれないけれども、黒字だった時期もありましたよね。確

か。まあ、黒字ったらおかしいけども結局、あの金が余りそうだから、働いている人の、給料を少し上げたり、餌を少し確保して、黒字にしないような感じの、なんていうのかな、そういう経営でやってたっていう話を聞いたんだけども。

町長:

いや、そういうことはあのね。

参加者①:

毎年赤字だったんですか。ずっと。

町長:

基本は、赤字でずっと来てると思います。

※1
それで例えば黒字の時も、例えば職員の給料って、牧場に、全部がついてるわけじゃなくて、役場の町全体の中に職員の給料って入ってますから、それが入ってなかったりとかして、実態が明らかになってないんですよ実を言うと。ですから、ちょっとそこは違うと思います。

副町長:

あの、町営なので、とことん営利を追求するっていうのはできないと思います。ただ、だからといって、赤字が許されるわけではありませんし、できれば、プラスで一般会計からの繰入れをするっていうのは、やってかなきゃいけないことだと思いますね。

参加者①:

うん。結局ね、あの、そういう赤字を気にするならね、第三セクターにして、あの、独立採算制にするのが本当でないかと思うんだけどね。

副町長:

あの、運営の方法はね、第三セクターだけじゃないと思うんです。

で、さっき、参加者③さんからあったように、今、町が考えなきゃいけないのは、やめるっていうのも一つなのかもしれませんし、それから、誰かにお願いするっていう方法もあると思いますし、それからもう一つは、現状の中で、民間の預託牧場よりかは安い預託料になってるはずなんで、見合う預託料をいただくっていう使用料の見直しということも、選択肢だと思いますね。

※1 独立した会計ではなく一般会計の全体の枠組みの中にあるため、人件費や減価償却を経費に含めた企業会計に近い収支シュミレーションとして算定した場合、令和7年度は△139,370千円の見込みで、令和6年度 △187,604千円、令和5年度 △174,252千円。収支の内訳について、別添資料としてホームページに掲載。

参加者①:

あれ、金額が高くなったって聞いたけども。

副町長:

3 年前に上げてます。

ただ、まだ、あの、低い水準だと思ってます。はい。

で、ちょっと、まあ、ついであってというわけじゃないんですけども、さっき町長からあったように、今までは、人件費は、役場本体の人件費中に含まれていて、牧場の収支を語るときには、牧場の、預託料などの収入とそれから牧場でかかった餌代とかそういった経費を比較して、赤・黒ってやってたんだけど、ちなみに令和 7 年度分で、その人件費とか、それから今まで見てなかった減価償却費を見込んで計算すると、1 億 3,000 万ほどマイナスになるっていう結果になってますね。

なので、過去の分も恐らくそういうふうになるんじゃないのかなというふうに思ってます。

ただ、過去はそういうやり方をしてなくて、今回そこまでさかのぼってやることもないと思ってて、作ってませんので、何とも言えませんが、そんなようなことであります。

行財政改革推進室長:

よろしいですか。

参加者①:

うーん、まあ、結局そういうのが、赤字が、結局響いてるんでしょ。町の財政に。

まあ、簡単に言うとやめちまえばいいんじゃない。

できた当初のね、目的はね、預託の人がいなかったから、やったと思うんだけど、今は預託の人がたがいるんだから、それに変わるような、なんていうのかな、町に本当に必要なのかっていう内容からいけば、どうなのかっていう風に疑いたくなるわけよね。

それに対して毎年赤字を出してるなら、本当にいいのかと。

俺らの町民の金を牛の餌にしてっていう感じで。

副町長:

町内の農家さんで実際に利用されている方っていうのは、えっと、40 戸を切るぐらいになってくるって聞いてます。

ただ、育成牧場が例えば今なくなったら、その 40 戸の方々って、例えば、牛舎をね、大きくしているとか、あの、スペースを確保しなきゃいけないってことが、すぐできるかどうかっていうと、非常に難しいんじゃないかっていうのが、現場の方で言ってる話なんです。

なので、まあ、例えば、いきなりやめるよって言った時に、そういう農家さんをどういうふうに助けるのかっていうところは、例えばやめるって判断する

ときには、農協さんと相談をしながらとか、あるいは、預けてくれてる方々とお話をしながらやっていかなきゃいけないと思います。

これまでは、比較的安い金額で、ちゃんとした牛を預かって、ちゃんとした牛を返すっていうところで、農家さんの経済にも貢献するっていうところで、赤字っていうか、不足になる部分については、ある意味、農業政策的な支援だっている位置づけで、のみ込んできたっていうところになります。

行財政改革推進室長：

はい、よろしいですか。

はい、ありがとうございます。

他に、ございますでしょうか。

参加者④：

ふるさと納税ね、どうですか。金額わかります。

それも、返礼品というのはどういうのを。返礼品って、役場の玄関に置いてあるものですね。

町長：

ふるさと納税はですね、実は、私、町長になってから始めた、その前の人はやってなかったんで。もう少し早く始めてればもっともっと下地ができたのかなと思って残念なんですけども。

金額的なことは6年度を比較するとですね、令和6年度ちょっと金額が落ちてたんですが、1億3,500万円が6,523件です。

で、令和7年度、少し頑張りまして、1億6,900万が標茶町に入ってきたふるさと納税の額です。多い時の私の記憶では、2億3,000万円くらいあった時期もあります。はい。

ただ、まだまだ、研究の余地もあるし、返礼品の数もですね、もっともっと増やすようにですね、担当を含めてお話をしているところです。

これまでは、ふるさと納税については、どちらかというと、役所中心に、その出店していただく企業の方を中心にやってたんですけども、今年、私いろんなところで実はお話をさせていただいているのは、ふるさと納税は、皆さんにやってもらわないと、町の税金なくなりますからダメなんですけども。

あの、皆さんの友人、知人、標茶町内に住んでいる人にですね、標茶町のふるさと納税、まあもし声かける人がいたらですね、応援してもらいたいってことをですね、声をかけていただければ、少しでもですね、伸びるのかな、そんな風に思ってますので、機会がありましたらよろしくご協力いただければと思ってます。

参加者④：

これはあの、各自治体とも大変なんですよね、今ね。財政難でね。

それで、ある人に聞いたらね、釧路管内では鶴居と白糠が非常にいいんですね。

だから、引っ越ししてくるんだったら、鶴居と白糠がいいよ、全て安いと。
どうなんですか。それ私聞いた話なんでね。
自治体の方で把握してるかどうか、その辺ちょっとお伺いしたいなど。

町長:

ふるさと納税が充実しているのは、白糠町です。

それと、あと管内では弟子屈町。まあ海がないんですけども、海産物取り扱ってるお店があるんで。それと根室管内行くと、根室市の海産物が出たんだという。最近ここすごく伸ばしてるのが別海町です。

はい。そこは、そういったものを活用しながら、様々な住民サービスも含めて、例えば施設の維持管理費とか、根室なんかそれを使って、例えば体育館がリニューアルできるとかですね、そういうのはやはり、そういう効果っていうのは大きいのかなと思いつつながら、実は非常に悔しい思いをしながらですね、見てるところです。

行財政改革推進室長:

ほかにございますでしょうか。

参加者①:

参加者①ですけども、町おこし協力隊、あれ何年か経ったら、あの、あれですよね、町おこし協力隊員じゃなくなるという内容で、それをあの、標茶町が、あの、まあ援助してる言ったらおかしいけども。

援助の仕方がちょっとうーん、どうなのよっていう。

首を傾げるような援助がね、あると。

この辺ね、あの監査する人がたを、あのまあ監査する人っていうのかな、いないのかなと。

やれやれやれっていう人ばかりかもしれないけども、止める人いないのかなと。

あんたそれじゃ食っていけないよと。

というような、ね、そういう人の意見もあってもおかしくないのに、なぜかあの、町おこし協力隊員何人来たんだかわからないけど、辞めてった人いるのかな、それだけ、何て言うのかな。

まあ、甘い生活を送らせてるって言ったらおかしいけども。

なんか、予算、今年も組んでますよね。結構。

阿歴内で羊だか飼ってる人も 20、30 頭とかっていう話だけど、20、30 頭で生活できるのかな。俺らに言わせると。その他、馬飼ってる人もいますけどね。馬飼ってて生活できるのかな。1 頭、2 頭ね。

1 週間に 1 人か 2 人乗っけて。

なんか生活するのに、なんか本当にぬるま湯に使ってて、あんた努力しなさいよという内容、あるのかなと思ってた。

そうならば、あれでね、多和の育成牧場かどこかでも働いてもらった方がちょっといいんじゃないかと思うんだけどね。

町長:

あの、今、地域おこし協力隊の話出てるんですけども、3 年間は国から特別交付金が来て、3 年間のその人の活動費っていうのは実は保証されてます。ですから、今話されているのは、終わった後どうかっていう話をされてると思うんですけども。

何人が辞めてますけども、そのうち例えば今、馬の話ありましたけれども、道産子を飼ってる方は自分で独立して起業をして、あの、それでしっかり食べています。町はほとんど支援はしてないというかですから、そういう方もしっかり、あの、やっていただいているんで、逆に言うと、完全に今まで協力隊の中で、標茶を離れた人は、正式にはお一人です。

ただその方も、阿歴内の引退した乗用車を標茶に預ける仕組みを作ってて、その仕事をやっていただいています。

その人が、例えばクラウドファンディングを集める仕事も含めて、やっていただいて、年間 3,000 万を超えるクラウドファンディングの基金をですね、しっかり集めていただきながら、まあちょっと残念ながら標茶には住んでないんですけども、まあ標茶で関わる仕事を実は引き続きやっていっていただいているってことであれば、私は協力隊で活躍していた人が、できるだけ標茶に定住してるっていうかね、そういう、そういう意味では非常に僕は、意味があるのかな、新たな会社を興していただいたりですね、そういった形で頑張っているんで、非常にいいきっかけになってると思います。

もし何か、いやここはちょっとおかしいよって、具体的なことがあったら教えていただければ。まあここでなくてもいいですけど。

参加者①:

いや、だから、もう 3 年以降になったときに、結局そういう期間だよな。

あんたこれで本当にやっていけるのかい。っていうので、そういうのが見極める人が本当にいるのかと。

やめようか、やめねえか、うんぬんかんぬんって言って引きずられて、4 年も 5 年もいて、結局ね、町から今まであの何十万だとかって言って、あの補助金だ、いまあの餌代だとかと言って報酬を受けてあの町から引っ張ってるけどさ、本当に必要なのかなって。

町長:

あの、3 年間は国からのお金が来るんで、それで資金を出してますので、3 年以降の 4 年目からは自分で独立してますので、その分で町が極端になんか支援してるってかっているのはありませんので、しっかりそこは確認しながらやってますので、その辺でなんか不審なことがあったら教えてください。

参加者④:

あの、今の話なんですけども、私もこの場所へ何回か行って、見てるんですけどね、素敵です。本当に。この連休にカフェやってますね。連休で馬の好き

な人に来て写真撮ってあげる。で、乗馬もやったりして、と。馬も素晴らしい馬來てます。

競馬であれした馬らしいって。

今放牧しているところもあるのですが、ちょっと広いところは今離してないですけど、狭いところにまず行っていて素晴らしいです。

よく頑張ってると思います。私もいいと思いますよ。

今月30日ですか。馬のなんかありましたね。日曜日ね。

町長:

阿歴内で学校の前のところに農村公園、馬の公園あるんですけども、そこで、あの、馬のイベントが予定されてます。ぜひご参加ください。

参加者④:

牛も大切ですけども、馬も観光としていいですよ。

副町長:

馬フェスの中心人物は協力隊の、間もなく、卒業か、卒業したかぐらいなんですけども、協力隊の方が中心になってやってくれています。

参加者④:

あの、今、町内で、あちこちでカフェやってるんですよ。

農家カフェやってるんですよ。塘路、阿歴内、茶安別。

あの一、財政をなるべくね、協力してあげてほしいなと思うんですよ。

宣伝でもなんでもいいからね。美味しいですよ。

副町長:

地元の人だけじゃなくって、外からも来る魅力っていう部分でいうと、本当にありがたいと思います。

参加者④:

そうですね。

阿歴内のカフェ、あそこもこの間行ってきました。

行ってコーヒー飲んで、いろいろ話してきましたよ。

あと花、花がすごくきれいだったんですよ。

町長:

是非、そういうふうに、阿歴内のカフェの方、実は僕、高校時代の同期なんです。昔から知ってるので、よろしくお願いします。

ありがとうございます。

参加者②:

えっと、今までこう、夕張だとか、まあ北見だとか、まあこんな同じような

ニュースありましたけど。

まあそういう、ちょっと僕勉強不足でよくわかんないんですけど、ああいうところで具体的にちょっとこう、このサービスがなくなったとか、そういうことって今、あの辺はどんな感じになってるんですかね。

北見だとか、なんか除雪は来ないよとか、なんかそんな話とかも、まあインターネットのね、中での話かもしれないですけども、まあ除雪は思うように、あの、入っていけないだとか、そういう話とかもちよっと聞いて、まあ具体的に言えば、今どう何なってるのかなとか、北見はどういうふうな、これから対策というか、どういうような方向でやっていくのかなとか、まあそれがね、最初はよそのことだと思ったけど、実際標茶が今こんな状況になって、まあ、そういう市町村とかと、まあちょっとこう、なんか連携っていうか、どういうふうな立て直しをしていくとか、知恵を借りながらやっていこうとか、そういうことって話としてあります。

町長：

あまりその、夕張市とお付き合いはないし、北見の市長は知ってますけども、それはたまたま釧網線が繋がってるとか、いろんな関係でお会いしたりとかするんですけども。

あの、具体的にじゃあそういう、中身は実はあまり話をしたことがないんですけども。

ただ、今例えば北見さんでも、頑張っているいろんなものを、公共施設縮小するよとか、いろんなことを実はよくあそこは、道新さんに取り上げられて、いろいろ書かれてるのかなと思って、それは聞いてます。

そういうのは、実際にどんなことをやってるのかなということは気にしながら、見ながらですね、やっていますので。

ただ、私どもはできる限りですね、そういったその住民サービスを極力減らさないでやれる方法はないかってことを、実は一生懸命考えながら、違うところで、例えば減らしていくとか、そういったこともできないかってことを実はベースに今考えています。

それで、今年の予算でも、住民サービスの予算で減らしているのはほとんどないと思います。実を言うと。

ほとんど今まで通り、ただ公共事業とかそういうのは減らしました。

それはそれで議会で行われて予算否決になりましたので、それは事実なんですけど、減らしすぎだっていうことも言われました。ただ、それ以外の住民の生活をしっかり守りながら、なんとか今の体制を、この人口が今 6,000 何人、最大 1 万 7,000 人くらいだった人口がですね、やはり 3 分の 1 近くになってきているのもですね、やっぱり今まで膨張し続けて、まちづくりをずっとやってきたんですね。

それはやっぱりどこかの時点でやはり縮小していくっていうか、身の丈にあった形に戻していく作業が実は今なんだと思います。

それを皆さんにご相談しながら、じゃあ例えば、やすらぎ園、今 100 床ありますけども、50 床にできませんかって話を議会にするとですね、いや、100 床

じゃないとダメなんだ、やすらぎ園は違うんだ、っていう話を実はここ数年されてきました。実を言うと。

で、そうじゃなくて、やはり身の丈にあった形で本当に必要なものをやりませんか。で、その他に例えば高齢者の施設として民間で約 30 床くらい持つてるんです。

やすらぎ園と同じような、ま、やすらぎ園とは違いますけども、同じような老人ホーム的なことを運営してる人たちもいますので、それは仮に標茶の中でやすらぎ園を前と同じように 100 床作ったとしたら、その人たちも恐らく営業的にも非常に厳しくなるだろうなと思っているので、やはり今頑張っている人たちもしっかり頑張ってもらいながら、行政がじゃあ何をしなきゃならないのか、最低限どこをやるのかってことをしっかり見極めていきながら、町が直営でやる部分を減らしていくしかないのかなと。今までどちらかというと、すべて行政が直営でやるのが当然いいよ、それもぜひやってほしいという形で、まあどんどん受けてやってきたし、まあ、町立病院も直営ですし、やすらぎ園も直営です。牧場も直営でやってます。

そういったことが非常にやはり重荷になってきているのは事実だと思いますので、そこをしっかりと整理をしながらやっていくのが一番なんだろうなと思っていますので、そういうのを少しずつ減らしながら、町民の皆さんが必要な最低限のサービスだけはしっかりとなんとか維持しながらっていうふうに整理をしたいなと思っていますので、もしここだけは是非守ってほしいとか、ここだけは、ここはもういいんじゃないか。

先ほど言った牧場の話もそうだと思うんですね。

やはりこれだけ財政が厳しい状況の中で、やはり町民の皆さんの税金で維持している中で、やはりその基幹産業の酪農とはいえ、そういった部分の負担をそちらに回していいんですか っていう部分もしっかり議論しながら、やはり今の育成牧場のあり方もですね、しっかり研究していかないとですね、皆さんからご理解いただけないのかなと。

そういうことも含めて議論していければな、とそういうふうに思っていますので、いろいろ教えていただきたいと思います。

参加者①:

ちょっとその内容で聞きたいんですけども。

貧乏人にでも入れるのはやすらぎ園だと。

昔からこれ聞いたことあるけれども、これ一般の事業者の方に、

あの、貧乏人でも入れるってことですよね。

町長:

ですから全て、例えば標茶町で 100 床、これからの人口規模が縮小する中で作ったときに、やはりそこしか、そこは金額的に安いかわかりません。

ただ、今、これからユニット化といって個室のやすらぎ園施設になる可能性があります。そういう補助金でしか今、建てられないですから。

民間も含めてそうなってくると、今よりも高い料金の設定に、やすらぎ園自

身もならざるを得ない。

さらに100床維持するとなると、介護保険料も同じだけ上がってくるんですね。そういうことも含めて、じゃあどこまで持ちますかってことで、介護保険料の中で民間もあるんだったら民間に任せといて、町は50床で、例えば維持した方がいいんじゃないですかとか。

確かにやすらぎ園、今の施設は安いです。年金生活してる人でも一定程度入れるような福祉施設があることは十分理解をしているんですが。

だからそれも全てそういう形じゃなくて、あの、例えば多床室、ひと部屋に4人とか入れるような部屋も用意しながら、ユニット化の個室も用意しながらとか、いろんな選択肢を幅を広げていくしかないのかなと思います。

参加者①:

いややすらぎ園にそこまで期待してないと思うんだけどね。見たら。
俺は思うんだけど。

町長:

期待してる人が多いです。はい。
最後は標茶で。

参加者①:

いえいえいえ。
それだけじゃ、結局、個室でというかね。
まあ親、兄弟、知人が結局見てくれないなら、やっぱりそういうところに世話になんないといけない。
かといって年金は少ねえから、やっぱりここにしか入るかってなるようになればね、個室のいいところに入るという気持ちにはなれないんだよ。
やすらぎ園っていう気持ちだよ。

町長:

意外と個室希望される方が多いです。

参加者①:

それは贅沢なんだけど。

町長:

調査すると。

行財政改革推進室長:

はい、ありがとうございます。

参加者③:

この話し合いって、やっぱり前を向かなきゃいけない話し合いですよ。

やっぱりもう、こうやって、もう町長、先ほど挨拶の中でも言ったし、この説明の中でもいろいろこういうふうに目指すって言うてる中で、やっぱりその本当に何回もしつこいけど、やっぱり切るところは切る中で、やっぱりそのライフラインとかね、今後生活に全部大事なところをして、標茶にも土木建設会社も、うちら第一次産業も当然僕ら農家も、大変な時期を今やってますけども、なんとか歯食いしばってやってる中で、やっぱり標茶の街にね、置いてる、やっぱり土木業とかね、建設業、もうだいぶ衰退してて、やっぱり町はね、やっぱりなかなかそういう財政で少しく町営のね、そういう事業とか、お金を落とせるところが少なくなってる、ま、そういうところがやっぱり弱くなってる、どうしてもそういうところで生活の一つとしてライフラインの整備とか云々かんぬんが不足してしまうんじゃないかなってところの心配がすごくあるので、そういうところにもしっかり力を注いでいただいて。

で、あの、本当に今、町長がこうやってここで書いて、ね、宣言してるんだから、それを本当に実行してもらえればいいと思います。

町長:

あの、今、公共事業の話から地元のね、基幹産業の額もそうですけども、ある一定程度、うちの町も、そういう公共事業でいろんな基盤整備や何やら、そして冬の除雪とかですね、そういう体制を維持していくには、やはりそういう企業の方があっても、ということだと思ってますので、そこをしっかりと一定程度維持できるような形で、事業もしっかり見定めながら、例えば道路の整備にとってもですね、冬の除雪だけじゃなくて、夏の道路の整備やパトロールも含めて、例えば一体的に委託するとかですね、そういった形で一定程度の仕事を確保しながら、地元の業者も維持をしてもらおうっていうか、そういう形でやっていくしかないのかなと、そんな風に思ってますのでぜひそこは、必要なそういう企業だと思ってますので、守っていききたいと思いながら進めていきたい、そのように思っております。

参加者⑤:

私、今回ですね、この説明会があることを聞いたときに、ああ、町長が文句を言われる場を作ったかわいそうだなと思ったんですけど。

実際問題ですね、先ほど参加者②さんが言われたように、夕張なんかになると、あそこは財政再建団体だって。

まあ標茶は破綻してるわけではないですから。

えー牛もたくさん生まれましたけれども、ぜひともですね、さっきの参加者③さんが言われた通り、前を向いてですね、何十年も20年後、この標茶をですね、なんとかしてもらいたく、うまいことやっていただきたいと。頑張りたいと思います。

参加者②:

若い人がいるから、今せっかくこうやって帰ってきてる若い子たちいっぱいいるから、その子たちがこう夢見てね、標茶にね、ちゃんと希望を持てるよう

に、やっぱり僕だとか、上の世代が頑張っていないとダメなんじゃないかなって思うんで。

町長：

ありがとうございます。

やはり、町長になってから一番何を始めたかっていうのは、やはり子育ての環境をまずはしっかり作って、そういう人たちが安心して子育てをしていただけるような環境ってことで、保育料を無料にしたり、学校給食も無料にしたり、医療費も大学生がね、ただにしたりとか、そういったこともやりながらしっかり皆さんの子育てしやすい環境をつてことになりました。

そしたら、あの、少し年配のお母さん方から、何で私のとこにやってくれなかったの。って怒られましたけど、まあそれはそれでつてことで。

だけどそういったことですね、ただそういったことに関しても、実は議会でも逆の質問されてんですよ。

あの、公共事業を減らさないために、そういった事業を、そういう子育て事業とか、やめることできないのかということも実は言われたりしてます。まあ、一つの選択肢としてつてことなんで、ただ、私はそれはやめませんつてことで、しっかりそういう環境を作りながら、皆さんとそういう、標茶にしっかり住んでいただくための環境づくりをしっかりしたいなと、そんなふうに思ってますので。

また何か足りないことあったらこういうことができないのかとか、そういうのも言って頂ければと、そういうふうに思います。

それから、いろんな会場でちょっと言われたことの中で一つ、うちの職員が何かあると、金ないからできないつて言われるぞつて僕怒られました。

職員にはもう、これから言おうと思うんですけども、金がないと絶対言うなつてことを、これから職員に訓示しようと思います。

ですから、金がないのはもう当たり前のことですから、それ以上に知恵を出してみんなでなんとかするつてことを、町の人と一緒にやってやるしかない、そんな風に思ってます。

はい、よろしくお願いします

行財政改革推進室長：

はい、ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

参加者④：

はい。あの、二、三日前に、JR のね、上下問題を受け、各町村でいろいろとお話ししてると思うんですよね。

標茶町の考えとしては、どういうふうにして考えてるのかなと。

この赤字釧網線をね、どういうふうにかえるか、ちょっと聞きたいんですよ。標茶町としてはね。まあ財政ゆるくないのもわかりますけれども。

町長：

非常に、あの、報道機関の方がいるんで喋りづらいんですけども。

実はですね、あの時の会議、実は私出れなくてですね、代わりに副町長が行ってるんですけども、まああの中の一発の発言は、うちの町議会議長の発言者コメントが、新聞に取り上げられて、全道版にも名前なかったけどコメントはそのまま載ってたんで非常によかったなと。

で、次の日にあの、JR 北海道の社長がちょっと時期尚早だったってことで、まあ担当者も入れ替えて、また今後新たな形で話になりましたんで。実はあの、今回のことっていうのは 10 年前に同じことを実は起きてるんですよ。

同じことを提案して、結局、議論されないで、先延ばしされたっていうことを。JR さんが今回、あと 1 年しか期間がないってことで、まあ焦ってるのかなと思うんですけども。

やはり基本は、国や北海道がこの鉄道網をどうするのか、何のためにこの鉄道を残すのか、ということをしっかり議論してからじゃないと、その負担とかなんとかの問題は後の話だと私は思っています。

ですから、釧網線は観光路線でもありますけども、例えばオホーツクとの物流の拠点としての部分、それが例えば釧路港につながるとかいろんな可能性って実はあるんだと思うんですよ。

そこもしっかり議論しながら、今これだけ人手不足の中で大量輸送が必要だって言われる時代の中で、議論するのは、やはりしっかり方向性を出しながら、その中で、ここの路線は残すとか、ここの路線はこうだっていう議論を、ただその、今問題になっている黄色線区だけじゃなくて、全部の北海道の鉄道を該当にしながら、イメージを作っていかないとダメだと思っています。

行財政改革推進室長：

はい。ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

参加者④：

あの、もう一つね、この機会ですので、ちょっと町長に伺いたいんですけども、今年の 10 月にね、町長選ありますよね、町長選挙がありますよね。

まあ 6 月の議会ではっきりするっていうことを聞いてるんですけども、本当にはっきりするのか。もう胸の中は決まってると思うんですよ。

どうですか。今の気持ちは。一言、決まってるようだったらお話ししていただければ。なんか陰でね、勉強会をやっているところがあるのを、ふらっと見たけど。すでにやっているとこもあるんですよ。

はっと思ったんですよ。

ここで頑張っていたきたいなと思うんですけども。どうでしょうかね。

胸の中ではもう決まってるでしょみたいな考えがちょっと聞きたいんですよ。

町長:

はい、ありがとうございます。

ご心配いただきまして申し訳ないですけども。

3月の時点では、実は正直に申しますと、後援会では、引き続き頑張れってことで、お話あったんですけども、予算も含めていろんな財政状況のこともあったので、今取り組まなきゃいけないのは行財政改革に残りの期間、集中してやりたいということで、先延ばしで、状況判断をさせていただきたいということで、一度、答弁させていただきました。

議会でも質問ありました。

で、まあそろそろ、結論出さなきゃなんないのかなとは思ってますけども、正式な回答は、まあここではちょっとしゃべれませんので、改めてちゃんとした場所でみなさんにお伝えしたいと思います。

参加者①:

えっと、昨年度からかな。パートの職員の給料が減ったという内容を聞いてですね、一番弱いものをいじめるのかなと、そういうようなことはあったんでしょうか。

副町長:

あの、ちょっと参加者①さんがおっしゃってることのニュアンスが少し違うのかなと思いますけど。

参加者①:

まあ、あの、時間数を減らして給料を減らしたっていう内容だったとは思ってますけども。

ただね、パートの人がたね、その時間給で結局生活してるんだよね。

今までもらってた給料をあてにして生活してるのに、その時間を減らしてね、働かせるっていうのは、結局今まではもらえたのに、1時間早く帰ってや、って言われるのがね、今物価上がってるのにね。

本当にあの、そのパート職員っていうのかな、面倒を見るっていう気持ちになってるのかなと思うんです。

その辺をね、なんだかは減らさない、っていうかもしれないけどね。

結局、パート職員がいじめてるようなもんだよね。

今まで出してたのに、早く1時間書いて、あの給料出さないようにするから。逆に言うとね、あの給料を3割カットしましたって町長が言ってたかもしんねえけども。

私に言いたいのは、町長が先にね、私我慢しますんでお願いします、っていうのが本当なのにな。

先にパートの給料から下げていくっていうのはどういう姿勢だったのかなと思っさ。

それね、ちょっと事実なのからちょっと答弁してもらえれば。

副町長:

えっとですね。令和 2 年に会計年度任用職員という仕組みが出来上がったんですね。それまでは臨時職員とか非常勤職員という区分だったんです。それで、会計年度任用職員ができたときに、フルタイムとパートタイムという種類があります。

で、管内でいうと、他の町は多くのところが、例えば昨日まで、昨日までというか 3 月までは 5 時半までの正職員と同じ勤務時間だったけれども、4 月 1 日からは 4 時半でいいよとか 5 時でいいとか言って、パートタイムにして切り替えたっていうところが多かったようですね。

ただ、標茶は私もちょっとその時間ではその職の見極めっていうのがなかなか難しいね、ということを考えて、まずは臨時職員はみんなフルタイムの会計年度に移行、フルタイムの臨時職員はフルタイムの会計年度に移行しようということでも乗り換えたんですね。

で、まず切り替えて、そして時間をかけて仕事内容を精査して、そして適正な人員配置をしていきたいと思いますということで動き出したんですが、なかなかあの、それができなかったんです。

で、今回それぞれの職場に確認をして、フルタイムじゃなきゃいけないんですかっていう確認をしたんですね。

そうすると、フルタイムじゃなくても仕事ができますっていう、そういうところについて、まずは今回はパートタイムに新しい年度から切り替えるってことをさせていただきました。

それは要は、とにかく人を雇うではなくて、そこにある仕事をやってもらうのにふさわしい職種の人を充てがうっていうことが、やはり適切な運営なんだっていう考え方でやってます。

なので、参加者①さんが言うように、その人にスポットを当てれば当てればかわいそうだなとなるんですけども、そうしちゃうと、適切な運営じゃなくなってくと思うんですね。

参加者①:

採用された時は、その時間で採用されてたのよね、今までは。

副町長:

もしかするとそれは保育職場のことかもしれません。

今言っていたのは、令和 7 年度から 8 年度に切り替わる時のフルタイム、パートタイムの置き換えなんですけれども。

令和 7 年の 12 月にあったんですけども、保育園で元々パートタイムで雇用していた、契約を結んでいた方なんですけれども、年度当初、新しく保育園に入った子供たちがたくさんいて、たくさん手をかけなきゃいけない、気配りもしなきゃいけないという中で、パートタイムの中の確か上限に近い時間数をやってもらってたんですね。

で、年末になってきて、子供たちも慣れてきて、そこまで手をかけなくても大丈夫っていう判断を園の方ではして。

なので、パートタイムっていうのが何時間から何時間までっていうことで契約をするんですね。で、その範囲の中で時間を短くさせてもらったってことがありました。

参加者①:

事務職とかは、別に、あれ、なんだ、時間を短くしたとかっていうのはないの。

副町長:

事務職を中心に、7 年度から 8 年度に切り替わる時に、7 年度はフルタイムだったけれども、8 年度はパートタイムでということが、結構な人数でやらせてもらってます。

それは要は、例えば 8 時間じゃなくても、6 時間でも仕事が回るっていう。

参加者①:

そういう っていうのはわかるんだけどね、今まで結局 8 万もらってたのに、そういうような内容が変わって、それが 7 万 5,000 円になったとなればね、それで生活、8 万で生活してたひと方がね、かわいそうでないのかと。

7 万 5,000 に下げるのはと。

逆に言うとなね、内容が変わったとしても、8 万円、物価が上がってるんだから、8 万円で本当は使っていくのが本当でないのかと。

副町長:

自治体運営はそういう考え方ではないと思います。

参加者①:

まあまあまあ、そうけど。

実際的に下がった人方はやっぱりね、給料下がったから、本当にこれから生活ゆるくない、っていう風な気持ちを抱くよね。

これが上がるっていうのは文句は言えないけども。

下がったっていうことに対しては本当にね、使われている身分から言わせればね、いやあ、もうね、早く帰れって言うんだけど、年収下がるときついんだよねっていう言葉しか出てこないと思うんだ。

そういうのをね、結局、まあ本当にパートの人たちの給料って知れてると思うんだけどもさ。

かわいそうな内容でもうちちょっとお前、あの、面倒見てやったらどうなのかなと思う。いや、金のないのはわかってるんだけど。

副町長:

はい、おっしゃるように、当事者は大変だというのはわかります。

ただ、標茶町って正職員 200 人、200 数十人いて、会計年度に職員も 200 数十人いるんですね。

で、それをそのままずっと点検もしないでやっていくっていうのは、さっきまでの話と全く逆のことになってしまうんですね。

こういう状況だから、ちゃんとそこに見合った仕事量を測定して、それに見合った人員を配置していくってことをやらないと、野放図にかわいそうだから給料払うって観点では、本当に税金を負担されている皆さんには申し訳なく、顔を向けられなくなってしまうので、そこは冷徹かもしれませんが、正しいことをやらせてもらったというふうに考えています。

(5) 開会あいさつ

(6) 開会 午後8時30分